

「おんぎゆと 音齋人 新聞」

戯言其之二

『書を捨てよ、町へ出よう』とは寺山修司の言葉だが、いまは「ヘッドフォンを捨て、全身で音楽を聴こう」と言いたい。

音楽を個で聴くようになって久しい。それで失われるものが多いと感ずるのは、私が歳をとった所為かもしれない。とは言え、音楽が「音を楽しむ」「音で楽しむ」と書かれるのは故あつてのことなのだ。

私の好きなビートルズを始め、ポピュラー・ミュージックは、そのルーツを辿れば大概がダンス・ミュージックだったと云つても過言ではないだろう。つまり全身を使って音を楽しむために発展してきたと云えるのだ。

もともと生でしか楽しめなかった音楽を耳で聴くだけの行為に収斂させてしまったのは、工業技術の向上による音の記録媒体の進化であり、昨今ではデジタル技術の利用による録音再生装置の飛躍的な進歩であろう。

こうして我々は、「個で」「どこでも」「気軽に」音を楽しむことができるようになったが、逆に真に音を楽しもうとする心を失ってしまった、或は放棄してしまつたかに思える。



しかし、我々の全く知らなかった処で、大きな志に支えられながら、細々とはあるが確実に続けられてきた『全身で音楽を聴く』ための技術革新がある。そうして結実された製品が、株式会社エルプのレーザー・ターンテーブルである。世界で唯一の「針を使わないターンテーブル」は『以前よりも良い条件で、より優れた性能で古い製品を甦生させるのも、新技術の活用と私は信じています』という株式会社エルプの千葉三樹社長（故人）の信念により作り上げられた、今われわれが手にすることができる日本製品なのである。「Think Different」とはアップルの故ステイブ・ジョブズの言葉だが、私は「Listen Different」を提案した。全く違って聴こえる音がここにあり、その音をともに楽しむ仲間がここにいる。

戯事其之二

So many people say that the ELP Laser Turntable is too expensive.

I won't deny that sayings.

But I think people calmly !! Who recognize the ELP Laser Turntable's high performance.

You need no other expensive equipment when you get the ELP Laser Turntable, like M's amplifier or J's speaker and so on.

Especially no expensive needles and cartridges.

I'm usually listening my vinyl records using cheaper Y's PA system. But I can get high performance.

Most important fact is the Beginning, where sound comes from.

I think again, pick-up tool is most important, so I strongly recommend getting the ELP Laser Turntable.

大抵の人は、エルプのレーザー・ターンテーブルの価格を聞いて「えっ、高すぎ」と驚くだろう。

確かに、製品価格が一般の家電品と比べて高いのは否定しない。

でも考えてみよ、こんな高性能のオーディオ製品がそんな安く買えるわけがないって!!

この製品はその名の「とくレーザー」

「音齋処」

On-Site



い わ む ら



光を使ってレコード盤の音溝をトレースしているのだ。だから、レーザー・ターンテーブルを手に入れたら、マッキントッシュのアンプやらJBLのスピーカーやら超高級オーディオ製品は、言って終えば、必要ない。まあ有ってもそれはそれでいい訳だが……。

それにこの事は重要なので強調するけど、普通のターンテーブルでは必要になるカートリッジや針なんかは大枚を費やす必要がないんだ。だって針使わないんだから。

針を使わないおかげでそうした出費はいらないし、おまけと言ったらいいのだから、針は減らないし、レコード盤の音溝を削ってしまうこともないんだ。だから、いつまでもレコード盤は初期の状態で聴くことができる。

私なんか通常はこのレーザー・ターンテーブルを屋外に持ち出して使うことが多いんだが、その時に使うのはヤマハのPAシステムだ。これで十分聴く人を感動させ、納得させられるんだ。

私が考えるオーディオの肝は『音の入力口』、音がどこから入ってくるかってこと。だから、強調するけど、レコード盤の音溝に刻まれた振動（波形）を拾うための道具、つまりピックアップ部分が最も重要なんだって……！

その意味で、音の入力口として最も信頼性の高い株式会社エルブのレーザー・ターンテーブルを強く勧めるわけなんだ。

写真は「音齋処、アーカイヴサポーターのドネーションにより、アーカイヴの完成したLP



戯言其二

手持ちのレコードをハイレゾ化した、CD化した、と思う方は多いのではないだろうか。

巷には「一発でレコードをCDに」的な製品も多く出回っている昨今、食指が動いている方も多いのではないか。かくいう私もその一人だった。だが、結局こうした製品には手を出さずじまいになったのには理由がある。それは、この手の製品はハイレゾには対応していないからだ。

ハイレゾとは high-resolution のことで、一般的にはCD音質を超えたアナログのレコード盤に限りなく近い音質となるのだが、今一つ分かりにくいかもしれない。ハイレゾについての技術的・理論的な詳細は、私などよりも丁寧に分かりやすく解説されたものがネット上には沢山

あるので、ご自身で検索していただきたい。ここでは192kHz 24bitをハイレゾの基準として、比較的安価にレコード音源をハイレゾ化する

る方法を紹介してみたい。ここでの安価は「五万円を超えない金額、できれば三万円以内」ということだ。

レコード盤のハイレゾ化とは、アナログをデジタルに変換することだ。従って、まず、コンピュータが必要、次に、レコード・プレーヤーが必要、最後に、アナログをデジタルに変換する機器が必要、と最低でも三つの機器が必要である。更にコンピュータにはレコード盤を録音する為のアプリケーションが必要なのは言うまでもない。

前述した「五万円を超えない金額」でこのすべてを揃えるのは、正直無理である。「五万円を超えない金額、できれば三万円以内」でレコードのハイレゾ化を実現するには、既にコンピュータは持っていて、レコード・プレーヤーも持っていることが前提の話となる。コンピュータはあるが、レコード・プレーヤーはないという方は、ソニーストア価格五万円台でハイレゾ対応のレコード・プレーヤーが発売されているので、お勧めする。

この続きは次回……といつてもいつになるかは私もわからないのですが……。
興味のある方は是非「音齋処」においでください。

発行 ◇ 平成29年9月23日
 発行人 ◇ 「音齋処」 主催者 横田 文孝
 お問い合わせは下記アドレスへ
On-Site@tajimiyori.com